

日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会 地震P S A分科会  
第2回 地震ハザード評価作業会 議事要旨

日時：2004年8月25日（水） 9:40～12:40

場所：(独)原子力安全基盤機構 第13, 14会議室

出席者：（敬称略）

委員 蛭沢〈主査〉、能島〈副主査〉、野田〈幹事〉、安中、石田、入野、  
宇賀田、奥村、尾崎、尾之内、香川、小畑、福島、藤原、吉田 15名

常時参加者 坂上、美原、三明 3名

傍聴者 なし

事務局 太田

配付資料

P7WG1-2-1 第1回地震ハザード評価作業会 議事要旨（案）

P7WG1-2-2 標準作成手引き

P7WG1-2-3 能島委員の地震ハザード評価に関する情報

P7WG1-2-4 藤原委員の地震ハザード評価に関する情報

P7WG1-2-5 香川委員の地震ハザード評価に関する情報

P7WG1-2-6 安中委員の地震ハザード評価に関する情報

P7WG1-2-参考1 委員名簿

議事要旨：

議事に先立ち、事務局より委員14名（今回委員として推薦された小畑委員を除く）が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。

1) 前回議事要旨（案）の確認 [P7WG1-2-1]

資料確認に引き続いて前回議事要旨（案）の確認を行い承認された。

2) 標準作成の手引きについて [P7WG1-2-2]

事務局より、標準作成に係る書式についての概要説明がなされた。

標準の構成は、①本体、②附属書（規定）、③附属書（参考）、④解説の4部から成り、①と②の2つが“規定”となる。

- ・総論の記載の是非については実際に文章を書きながら決めていくべきであり、「本体」そのものを総論（要約版）と考えることもできるとの意見があった。
- ・総論を記載するとした場合には、標準の附属書（参考）の部分に該当するとの見解が事務局より示された。

3) 人事について

- ・委員として小畑氏（経済産業省 原子力安全保安院）の推薦があり承認された。
- ・常時参加者として川原氏・野中氏・富永氏（経済産業省 原子力安全保安院）の推薦があり承認された。
- ・3役協議の結果、蛭沢主査より幹事補佐として尾崎委員が指名され承認された。

4) 能島副主査からの情報紹介 [P7WG1-2-3-1, P7WG1-2-3-2, P7WG1-2-3-3]

Cornell流の地震ハザード評価事例に加え、性能設計を意識した地震リスクマネジメントモデルの提案や、地震調査研究推進本部で作成中である地震動予測地図の活用事例としての震度曝露人口の試算について紹介がなされた。

- ・他分野（損害保険料率算定協会や地震調査研究推進本部）における手法や知見との関連について質疑がなされた。

5) 藤原委員からの情報紹介 [P7WG1-2-4]

地震調査研究推進本部における地震動予測地図作成プロジェクトの大枠について紹介がなされた。広域な面での地震ハザード評価であり、原子力分野で行われる点での評価とは異なる部分があるとの補足説明があった。

- ・距離減衰式のばらつき取り扱いや発生確率（頻度）の公開のされ方について議論がなされ、中央防災会議と地震調

査研究推進本部の役割分担に関する質疑があった。

6) 香川委員からの情報紹介 [P7WG1-2-5]

地震動の最大値（頭打ち）に関する検討結果についての紹介がなされ、断層が地表に出るか否かの閾値付近の地震規模において地震動が最大になる可能性が示唆された。

- ・地震ハザード評価の更なる高精度化のために、地震動の短周期成分をより高精度に観測できる地震観測網の整備の重要性について議論がなされた。

7) 安中委員からの情報紹介 [P7WG1-2-6]

ロジックツリーの分岐のモデル化方法について紹介がなされた。

- ・海溝型の地震や内陸の活断層に対する発生頻度（確率）の幅の与え方に関する質疑があった。

8) その他

今回の作業会は9/2(木)の9:40からとし、これまでの事例紹介（JNES、産業界、4委員）を踏まえ、地震ハザード評価における課題を洗い出して議論する。

以上